

「浜松市の無形民俗文化財」教材用資料

ふりがな	よこ お か ぶ き	担い手	横尾歌舞伎保存会
名 称	横尾歌舞伎	文化財指定	県指定 昭和49年(1974年)4月19日
場 所	浜名区引佐町横尾899-1 開明座(かいめいざ)	開催日	10月 第2土曜日、日曜日
概 要	役者・太夫・三味線弾きから、振付・着付・床山(とこやま)・大道具・小道具・舞台係などの裏方を含め、全て地区の人たちの手で賄われている農村歌舞伎。江戸時代から台本・衣装・鬘(カツラ)・道具類を先人たちが買い求め、又は制作・修理しながら残し伝えてきた。顔を作る化粧も、師匠から代々伝えられ、役者自らが行っている。現在、保存会は小中学生をはじめ、大人は20代から80代まで幅広い年齢層で構成されており、役者だけでなく、多くのスタッフ・裏方が公演を支えている。開明座は農村地域ならではの親しみやすい雰囲気の特徴。横尾歌舞伎は、横尾地区の氏神様である八柱神社と、白岩地区の氏神様である六所神社への奉納として行われる。 (奉納=神様に感謝の気持ちを伝えるために芸能を捧げること。)		
起 源	白岩地区に伝わる寛政6年(1794年)の御定書に記述がみられることから、220年以上前から伝わると考えられる。		
演目・楽器	公演当日は、朝早くから売店の準備が始まる。地元で育てた新鮮なトウモロコシや、おでん、だんごなどの食べ物が用意され、観客は歌舞伎を見ながら楽しむことができる。これは農村歌舞伎ならではの風景といえる。また、役者たちは公演に向けて化粧をし、衣装を着けて準備を整える。化粧の方法は、代々伝わるもので、子供役者たちは親に手伝ってもらいながら少しずつ覚えていく。衣装はとても重く、着付けは数人がかりで行われる。保存会のメンバーは、年間を通して衣装や鬘(カツラ)の手入れをしているため、いつでも美しい状態で公演に臨むことができる。横尾歌舞伎の公演は、まず舞台を清める舞として「寿式三番叟(ことぶきしきさんばそう) 宝の入船(いりぶね)」が上演される。舞台に祭壇が設けられ、塩をまいて清めた後に幕が振り落とされ、新しい舞台が始まる。続いて、保存会の若手メンバーが演じる演目やベテランの役者たちによる演目が上演される。これらの演目は、地域独自の所作や演出が取り入れられており、長い歴史を持つ横尾歌舞伎の特徴を感じることができる。		
祇園祭との つながり	横尾歌舞伎の公演に先立ち、毎年7月には「祇園祭」が行われる。この祭りでは、その年に上演される演目が披露され、化粧を施した歌舞伎人形が屋台に乗せられて地域を巡る。この祇園祭も、横尾地区と白岩地区の神社に関係する大切な行事で、地域の人々が協力して行っている。		

●作成年月日／令和6年9月30日現在の情報

